

派遣後の活動



▲令和2年12月6日（日）「平和の集い」 @けやきプラザふれあいホール

■ 被爆 75 周年我孫子市平和祈念式典



湖北中・染谷美翔さん

派遣後、8月15日に行われた我孫子市平和祈念式典に参加し、派遣中学生として紹介されました。そこで派遣の報告を行いました。また、参加者皆さんの先導として、我孫子市の平和宣言を読み上げました。

そして、平和の記念碑に折り鶴を奉納しました。式典の最後に、私たち派遣団を含め、多くの参列者が、記念碑に献花を行いました。



■ 我孫子市平和祈念式典について

我孫子市原爆被爆者の会との共催により、被爆 75 周年平和祈念式典を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、座席を減らし、間隔を空けるなどの対策をとって、例年より規模を縮小しての開催となりました。参列した約 60 名は、原爆犠牲者に哀悼の意を捧げるとともに、核兵器廃絶と平和を祈りました。

原爆の恐ろしさや悲惨さ、平和の尊さを次の世代に伝えていくため、市では若い世代にも平和事業に携わってもらう工夫をしています。その一環として、司会進行を我孫子市平和事業推進市民会議の高校生と大学生が務めました。



■式典のスケジュール

令和2年8月15日（土）午後5時00分から

手賀沼公園「平和の記念碑」前にて

<司会進行>

平和事業推進市民会議委員

山口 悟暉（大学2年生）、高須 万悠香（高校2年生）

時間	内容
17:00	開式
17:02	参列者全員による黙とう
17:05	式辞 主催者/我孫子市原爆被爆者の会 会長 的山 ケイ子 主催者/我孫子市長 星野 順一郎
17:15	献花（代表者、派遣中学生）
17:25	千羽鶴の奉納 広島派遣中学生 我孫子中学校 山元 誠人
17:30	ごあいさつ 来賓/我孫子市議会議長 西垣 一郎 来賓/千葉県議会議員 水野 友貴 紹介 我孫子市副市長 青木 章 我孫子市教育長 倉部 俊治
17:40	広島派遣中学生の紹介、報告 ・派遣団9名の紹介 ・団長あいさつ、報告 我孫子中学校 高瀬 由華
17:50	我孫子市平和都市宣言の読み上げ （派遣中学生による発声後、参列者全員で）
17:55	献花（参列者）
18:10	閉式

■ 我孫子市原爆被爆者の会 式辞

皆様、こんにちは。我孫子市原爆被爆者の会の的山です。

8月6日の広島平和式典の様子、テレビでご覧になりましたでしょうか。私は、例年とは違う思いで放送を見ていました。コロナだからではありません。

広島市長が白い手袋をつけ、捧げ持っていた原爆被爆者の死没者名簿。今年は、4943名のお名前が記されているそうです。その名簿に、この我孫子市原爆被爆者の会、前会長、宮田将則さんの名前が記載されているからです。

宮田さんは、去年8月、この式典に車椅子で参列されていました。しかし、11月には白血病で亡くなられてしまいました。白血病は、被爆者が1番なりたくない病気です。

宮田さんは、広島で5歳の時、被爆されました。それから74年間お元気だったのです。74年経って、被爆が原因ではないかと考えたくなる病気になる。やはり核兵器は恐ろしいと身震いがしました。

数日前、被爆者の方の話をラジオで聞きました。その方は、被爆体験を語り継ぐ中で、1番大切にしているのは、体験談を聞く人に、広島や長崎の被爆は、他人事ではない、身近なことと思ってもらえることだと話されていました。

宮田さんは、今年「国立広島原爆死没者追悼平和祈念館」に遺影が登録されました。我孫子市と広島市を結ぶ懸け橋になりました。今回、ここを訪れた派遣中学生は、75年の時を一気にこえ、広島での被爆を、身近なものと感じてくれたのではないのでしょうか。

派遣中学生の皆さん、市長さん、コロナウイルス感染症が心配される中、その脅威を跳ね飛ばして広島へ行って下さったことを、心からありがたく思います。

本当に、ありがとうございました。

■我孫子市長 式辞

本日は、被爆 75 周年平和祈念式典に際し、ご来賓各位並びに我孫子市原爆被爆者の会の皆様のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

今回の平和祈念式典は、新型コロナウイルス感染症が未だ収束していない状況でありますので、感染症拡大防止のため、規模を縮小した形での開催とさせていただきます。

さて、広島と長崎に原子爆弾が投下されたあの忌まわしい日から 75 年目を迎えました。

原子爆弾は、一瞬のうちに多くの尊い生命を奪っただけでなく、辛うじて一命をとりとめた人々にも、心身共に生涯消えることのない深い傷を残しました。

原爆並びに先の大戦で犠牲となられた御霊に対し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

今年で 16 回目となる被爆地への中学生派遣では、市内 5 校の代表生徒 9 名とともに、広島市を訪問してまいりました。例年は、広島に原爆が投下された 8 月 6 日の平和記念式典に合わせて広島を訪問しておりますが、今年は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により参列者が大幅に縮小されたため、時期を 1 週間遅らせ、8 月 10 日から 12 日に訪問しました。式典には、参列できませんでしたが、平和記念資料館や被爆した小学校等の見学、被爆された方から直接お話を伺うなど、現地での体験を通じて、戦争や原爆の恐ろしさ、平和の大切さを、派遣中学生たちは学んでくれたのではないかと感じています。

そして、今日は終戦からちょうど 75 年目の日にあたります。戦争体験者や被爆者の方々が高齢化するなか、同じ過ちを二度と繰り返さないよう、当時の悲惨な記憶と記録を後世へ伝えていくことがますます重要になっています。

唯一の被爆国として、また、平和都市宣言をしている自治体として、核兵器のない世界が実現されることを強く願い、広島や長崎に派遣された経験をもつ若い世代をはじめ、多くの方々とともに平和事業に取り組んでまいります。

結びに、日頃から市の平和事業にご尽力いただいております我孫子市原爆被爆者の会や平和事業推進市民会議、歴代の派遣中学生の皆様に感謝を申し上げますとともに、本日、ここにご臨席の皆様方のますますのご健勝を心からご祈念申し上げます、式辞といたします。

■ 手賀沼とろう流し

式典後、式典参加者や派遣中学生ら約 50 名が参加し、それぞれの「平和」への思いを記した灯ろうをつくりました。



参加者それぞれの思いが込められた灯ろうを夕暮れの手賀沼に流し、平和を祈念しました。



灯ろうに込めた平和への思い・願い

広島派遣を終えた中学生も、一人ひとり灯ろうに平和への思いや願いを記しました。



【我孫子中・高瀬由華さん】

私は、『戦争について耳を傾けてくれる方が増えますように。』という願いを灯ろうに書かせて頂きました。

現在には歴史の授業やインターネットなど意外と平和に関して触れる機会が沢山あります。

せっかくのものを無駄にしないよう、私たちが発信し続けていきたいです。

【我孫子中・山元誠人さん】

『戦争の恐さを全員が知って、二度と悲劇を繰り返しませんように』

僕は灯ろうにこのように書きました。戦争を繰り返そうとする理由は、戦争の恐さを知らないから。戦争について、また原子爆弾などの核兵器について知る機会を作って、戦争の恐さを知れば、戦争をやろうと思わなくなるのではないのでしょうか。



【布佐中・賢春香さん】

私は「認め合い、助け合い、笑顔」と書きました。

人を認め、助けることによって、人と人との繋がりが築かれ、人は笑顔になれます。ですので、私はこのような世界に向かって、これからも前進していきたいと思いました。

【布佐中・藤川幹太さん】

私はとうろう流しをするのは初めてでしたが、広島で学んだことを通し、原爆で命をおとされた方へ自分の思いを届けることができました。また、それと同時にもう二度とこのような惨劇を繰り返さないと心に誓いました。



【湖北台中・大津佳奈さん】

私は「おそろしい原爆が二度と落とされず、戦争のない平和な世界になりますように」と書きました。広島で起きたことが、二度と繰り返されたくない、たくさんの人々の命を奪ってしまう戦争が、早くなくなってほしいと思い、この文章を書きました。

【湖北台中・中村恭平さん】

私の思い描く平和とは、笑顔の絶えない世の中になっていることです。家族、友達などに笑顔で毎日生活してほしい、という思いを込めました。





【白山中・信田明音さん】

私は「大切な人と笑顔で過ごせる世界に」と書きました。

普段、当たり前で過ごしている1日。しかし、それは戦時中から考えると幸せなことだと今回感じました。

これからは、1日1日を大切に笑顔で過ごしていきたいと思います。

【白山中・寺島一樹さん】

僕は、「違いを認めあえる勇気を」と書きました。人にはそれぞれ違った個性や考え方があります。自分と違うことを間違いだと思わず、別の正解だと捉えることで、争いのない平和な世の中に近づいていくと思います。



【湖北中・染谷美翔さん】

この世界が完全に平和とは言い切れません。人々が平和を願い、人が人によって命を脅かされない世界になってほしいと考え、私は、『戦争で亡くなった方が安らかに眠れますように。』『平和な世界になりますように。』という願いを灯ろうに込めました。

私たちが広島派遣で学んだことは、戦争や原爆の恐ろしさ、それとともに私たちの生活のありがたさです。食事、住まい、周りの人たち、すべてが尊いものです。戦争と平和が一本の糸の両端であるなら、私たちの生活は戦争から遠い場所にあるとしても、戦争を忘れてはいけません。今の生活に紛れて、人々の頭から戦争の存在がなくならないよう、私たち派遣団はこれからもそれを伝えていきます。



■ 広島・長崎派遣中学生リレー講座～未来を生きる子どもたちへ～



我孫子中・高瀬由華さん

夏の広島派遣から帰ってきた2学期から、私たちは「広島・長崎派遣中学生リレー講座」に参加しています。

このリレー講座は、平成27年、戦後70年平和事業としてスタートしたもので、私達より先に、これまでに広島や長崎に派遣され、現在は高校生や大学生となっている歴代の派遣中学生の先輩たちが市内の小学校の6年生の児童のみなさんに平和をテーマにした授業をするものです。



我孫子中・山元誠人さん

僕は我孫子第二小学校と第一小学校、湖北台西小学校のリレー講座に参加しました。

最初はどのような感じにやるのか少し不安でしたが、いざやってみると小学生に伝えることのむずかしさと同時に、楽しさを感じることができました。

平和について小学生が考えた意見をみていると、自分も勉強させられるような意見もあり、とても貴重な経験になりました。

これからもリレー講座のアシスタントとしていろいろな学校に参加しますが、いつか派遣生の先輩のように講師をやりたいなと思っています。



湖北中・染谷美翔さん

私は、我孫子第二小学校と湖北台西小学校のリレー講座に参加しました。

小学生たちが平和と日常生活の楽しみを結び付けて、「ごはんを食べること」「友達と遊ぶこと」「アニメを観ること」などたくさんの意見をだしてくれました。真剣に耳を傾けてくれたので、私たちの気持ちがちんと届いているのかなと感じました。



白山中・信田明音さん

私は我孫子第一小学校のリレー講座に参加しました。

小学生には、「平和な世の中にするために、今日から自分ができること」をテーマに考えてもらいました。ですが、なかなか意見が出ず、考えこんでしまう子もいました。しかし、「自分ができること」の中には「周りの人のことを考える」といったことも含まれていると思います。そういった身の回りのことにも目を向けてほしいということ、これからの平和リレー講座でも伝えていきたいと思っています。



白山中・寺島一樹さん

僕は、我孫子第一小学校のリレー講座に参加しました。小学生の中には、戦争や原爆について知らない人も多くいました。

それでも一生懸命にメモをとりながら僕や講師の話を聞いてくれる小学生のみなさんの姿に感動し、これからも、たくさんの人たちに、僕が広島で感じたことを伝え続けていきたいと強く思いました。



湖北台中・中村恭平さん



長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）の核弾頭データなどをもとに作成（2020年6月現在）【参照】長崎市ホームページ

悲しみを無数に生んだ原子爆弾が、2度使用されただけでなく、現在もなお、世界に約13,400発あるといわれています。

しかも、広島に投下された原爆の威力をはるかに超える水素爆弾を保有している国があります。現存する世界中の核兵器は、地球上の全ての生命を何度も壊滅させることができる分量といわれています。



しかし、核兵器が人間の手でつくられたものである限り、人間の手によってそれを縮小し廃絶することができないはずがありません。

この世界から戦争、核兵器をなくすために、私たちも何ができるのかを考え、行動に移していきます。

■ 平和の集い～我孫子から平和を願う～

12月6日（日）に、けやきプラザ2階 ふれあいホールで「平和の集い～我孫子から平和を願う～」を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な対策を講じた中での開催となりました。通常の半分となった座席がほとんど埋まるほどの、約260名が来場し、中学生による派遣報告などに耳を傾けました。この事業は市与我孫子市平和事業推進市民会議の共催事業で、市民会議委員の大学生2名が司会を務めました。

<司 会> 我孫子市平和事業推進市民会議委員

竹内 梨紗（平成26・27年度広島派遣中学生）

松丸 高大（平成27年度広島派遣中学生）



第1部 広島派遣中学生による報告

令和2年8月に広島市に派遣した中学生9名が、現地で学び感じたこと、平和について考えたことなどを発表しました。派遣報告の最後は、中学校ごとの「平和宣言」で締めくられ、中学生たちは自分の言葉で平和への思いを語りました。





第2部 広島派遣 OG の高校生による平和を願う歌

高校2年生の^{まさきあい}柵木愛さんは、平成29年、当時中学2年生で広島派遣に参加し、現在は自身が作詞作曲した歌を通して多くの人に戦争や平和についての思いを伝える活動をしています。海外で過ごした経験や布佐中学校の総合学習「グローバルピース」への参加、そして広島派遣での被爆者の女性との出会いなど、自身の経験からオリジナルの曲をつくるようになったという柵木さん。貧困や争い、生きること、そして原爆をテーマにした歌を、思いを込めて届けました。

<歌唱曲>

『GLOBAL PEACE』 『8月6日』 / 作詞・作曲 柵木 愛



第3部 我孫子中学校演劇部「戦争を知らない子どもたち」

市内中学校唯一の演劇部である我孫子中学校演劇部は、平成 25 年から毎年、戦争や平和をテーマにした演劇を通して、観る人に平和の尊さを伝え続けています。今年も 16 名の中学生たちが一生懸命演じました。

<あらすじ>

太平洋戦争が激しさを増す中、空襲に怯えながらも、日々明るく懸命に生きる健太。現代の学校に退屈しながら、毎日をなんとなく生きる由希。

生きている時代が違う二人がひょんなことから入れ替わってしまう。

戦争を知らない現代の子どもが、悲惨な戦争の時代を生きたら…。

戦時中の子どもが、物の豊富な現代を生きたら…。

戦争とは、平和とは、そして今を生きるとは…。



「平和の集い～我孫子から平和を願う～」展

平和の集いの開催に合わせて、2会場で展示会を開催しました。

あびこ市民プラザでは、平和の集いに先駆け、11月18日から25日まで、広島平和記念資料館所蔵の「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル」や、令和2年度広島派遣の様子などを展示しました。

けやきプラザでは、11月26日から12月6日まで、広島・長崎派遣中学生リレー講座や手賀沼とうろう流しの様子、これまでの市の平和事業などを展示しました。



◀あびこ市民プラザギャラリー
の展示の様子

▶けやきプラザ 第1ギャラリー
の展示の様子



▲けやきプラザ 第2ギャラリーの展示の様子

私たちの平和宣言



▲広島平和記念公園にある「原爆の子の像」



1945年8月6日、広島の良い空は一気に真っ暗闇に包まれました。
混乱している街中に響く様々な声。

一発の爆弾であれほどの被害が出るなんて誰が想像していたでしょうか。
皆さんは原子爆弾のことをどれだけ知っていますか。

「へーそうなんだ。」と興味も示さず、聞き流したりしていませんか。

今、私たちに必要なことは戦争や原爆をもっと身近に感じ、考え続けていく
ことです。現地に行った私たちだからこそわかったこともたくさんあると思います。
私たち一人一人が学んできたことを皆さんに伝えられるように活動していきます。

これから平和な世界が続くことを願っています。

令和2年度広島派遣中学生

我孫子中学校 2年 山元 誠人、高瀬 由華



私はまだ中学生で、できることは大それたことではありません。そんな私が、なぜ広島へ行かせてもらえるのだろうか。そう考えたときに、私たち子どもが戦争や原爆について学び、心に響くことが大切なのだと気づきました。私たちに求められていることは、大人のような大きな活動ではなく、私たちが感じたことを私たちに伝えていくことだとわかりました。

リレー講座で訪れた小学校の男の子の一人が、「核兵器を作った人はおかしい。」という考えを話してくれました。多くの人の命を奪った核兵器を作ったというのは事実です。しかし、ほかの見方をしてみると、そもそも戦争が起きていなければ、核兵器という最終手段を作る必要はなかったとも考えられます。世界には今でも多くの核兵器があります。それをどうしていくか。それは、未来を生きる私たちにかかっています。多くの人々が正しく戦争を理解し、考えることで、同じ過ちが起こることを防がなくてははいけません。そのために、私たちが今できること、こうして平和への意識を広めていきたいと思っています。

令和2年度広島派遣中学生

湖北中学校 2年 染谷 美翔



私にとって広島派遣は、75 年前に起きた過去の出来事ではなく、75 年前の私達と同じ歴史の中にある真実を知る機会となりました。「二度と同じ過ちを繰り返してはいけない」これは誰もが思っていることでしょう。しかし、核兵器はなくなりません。それは、75 年前の真実を知らない、または一歩進む勇気がないからだと思います。ですので、誰もが「平和」と思える世界に向かって、私達は、知る勇気・伝える力を持って、この広島派遣で学んだこと、感じたことをより多くの方々に伝えていきます。そして、戦争の恐ろしさ・平和の尊さについて知っていただけるように最善を尽くしていきます。

最後に、過ちとは何のことですか？ 平和とは何ですか？ 自分の言葉で語っててください。私たちは自分たちの望む未来に向かって、核兵器のない世の中を築き上げていくことを誓います。

令和 2 年度広島派遣中学生

布佐中学校 2 年 藤川 幹太、寶 春香



私たちは今回の広島派遣での様々な経験を通し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを肌で感じる事が出来ました。

この世の中にはまだ核兵器を持っている国が沢山あります。いつか、核兵器が0の世の中になって欲しいと思います。

「私たちは、互いに認め合う優しい心を待ち続けます。

私たちは、相手の思いに寄り添い、笑顔で暮らせる平和な未来を築きます」

この言葉は平和記念式典でのこども代表の平和の誓いで言っていたことです。互いに認め合う優しい心を持つこと、相手の思いに寄り添うこと、このふたつは平和に近づく第1歩として私達も実践していきます。

令和2年度広島派遣中学生

湖北台中学校 2年 中村 恭平、大津 佳奈



私たちは今年の夏、広島派遣中学生として広島へ行き、戦争の恐ろしさや原爆がもたらした苦しみを感じることができました。

「二度と戦争を繰り返さない」

よく耳にする言葉ですが、どれだけの人がこの言葉について考えることができていたでしょうか。今回の派遣での活動を通して、この言葉に戦争に苦しめられてきた多くの人たちの願いが込められていることに気付かされました。

私たちは「戦争」と言われると、今とは全く違った生活を想像してしましますが、そうではありません。その当時も今と同じようにかけがえのない家族がいて、当たり前の日常がありました。戦争はそんな幸せな日常を奪っていったのです。

これから私たちは、1人でも多くの人に戦争を身近に考えてもらうために、派遣で知り、感じたことを平和事業などを通して伝えていきたいです。

令和2年度広島派遣中学生

白山中学校 2年 寺島 一樹、信田 明音